



指月

SHIGETSU

修禪寺・寺報
第 52 号

発行所 (〒410-2416)
伊豆市修善寺964
福地山 修 禪 寺
電 話 (0558)72-0053
FAX (0558)72-9680

誰家無明月清風

住職 吉 野 真 常

『誰^タガ家^イニカ明月清風^ナ無^ナカラ^ナン』と読みます。

当寺三十九世齋院絶三老師書のこの掛軸が今(六月二十三日現在)掣龍閣(修禪寺内の一室)の床の間に掛けてあります。

実を言うとこの軸は先日、伊豆市に住む、ある御婦人より戴いたもののなのです。齋院老師は、修禪寺に約三十年間も住職をされていましたが、寺には齋院老師の書かれた一枚の墨跡も残っていないかったのです。近年歴代の住職の書は、残っているのですが三十九世のみがない。今年は齋院老師の二十三回忌にあたります。その法要の時に、老師の墨跡を掛けたいと考えていました。

ヨシワラ

四月十七日葭原観音堂での集会の時、集まった方々に寺には一枚も齋院老師の墨跡がない事。又今年老師の二十三回忌にあたり、できれば老師の書を掛けたい事等を御話した所、伊豆市在住の二名の方より寄進がありました。一つは『露堂々』の額。もう一つが『誰家無明月清風』の掛軸です。

先日、ある高名な政治家が御夫

妻で来山されました。最近子供さんを亡くされたとの事。奥様は、大変力を落とされておりました。その方と御茶を飲んだ部屋に、この掛軸が掛けてありました。

「この軸は、どう言う意味ですか。」という質問に「月は、どこかの家にも光を落とします。風は、この家に吹き、この家には吹かないなどと言う事はありません。明月も清風もあまねく照らし、そして吹くのですが、その名月・清風を感じられない人もいます。誰が家にか明月清風無からんと言う事は、どここの家にも明月清風はある。無いと思うのは、ただ気付かないだけだという事です。」と答えました。その時、その方が奥様に向かってこう言ったのです。「お前、ウチにも明月清風はあるんだよ!」とその言葉のなんと、やさしい事か。私は、その一言を聞いて、その方が大好きになりました。生きると言う事は、どういう事でしょうか?。人は皆、本当に生きていくのでしょうか?。道元禪師様の著わした『坐禅箴^シ』の中にこうあります。

水清^{キヨ}うして地に徹^トす

魚^{ウオ}行^{ユク}いて魚に似たり

空^{ヒコ}闊^{ワカ}うして天に透る

鳥^{トリ}飛^{トビ}んで鳥の如し

魚は、水の中でいつでも魚として精一杯生きています。精一杯と言う思いもなしに。不平を言い、ふて腐れている魚を見た事がありません。鳥は大空の中でいつでもどこでも精一杯生きています。鳥として。以前修行をしていた雪深い禅道場でも、雪の中小鳥達が元気に飛び回っていました。ひどい寒さに不平を言い、ふて腐れている鳥を知りません。しかし人間は、なかなかこの命^{イノチ}を精一杯生きられないのです。儲かる、儲からない。つまらぬ、つまらない。そう言う思いの中でガンバったり、いいかげんにやったりしているようです。この命^{イノチ}は一回キリです。今、ココは一回キリです。まずこの一回きりの命を精一杯生きる。そしてその次に、儲かる、儲からない。成功、失敗等があるのです。今、ココにしっかり生きる事を忘れて、ああだ、こうだと思ひ悩み、大切な生を無駄にしないように。道は脚下にあり。明月清風は、今・ココにあるのです。私が私として精一杯生きている所に。一生懸命生き切っている所に。

修禅寺仏教婦人会会長に就任して

相原 郁子

この度、平成二十四年度―二十五年年度の修禅寺仏教婦人会の会長に就任いたしました。

このような大役は青天の霹靂^{へきれき}。思いがけないことと大変に驚き恐縮で、勿論即ご遠慮申し上げましたが、一方お断り出来ない事情もありました。

このことは四月の平成二十四年度総会の時にお話をさせて頂いたのですが、私は旅館業をしております。旅館の庭園の片隅には約一メートル(台座を入れると一・三四メートル)の観世音菩薩立像を安置した立派な観音堂があります。

家の持仏堂として夫の祖父母が熱心におまつりをしておりましたが、特に祖母の晩年は終日お堂にお籠りをして過ごしていたと聞きまして、いつの頃からか私も掃除をし、お参りをするようになりました。平成七年頃のある日ふと気がつく観音様の右足先の半分が離れておかしい具合になっていました。

素人がそこら辺の接着剤で治し

ようもなく如何したものかと思案していましたが、以前、埼玉県大宮の吉備文化財修復所が修禅寺の御本尊木造大日如来坐像の修復や指月殿に関わっており、その頃調査をしたことがあったとのことや時々旅館に入浴しにいらしていたことがありましたので、同所長の山形県東北芸術工科大学准教授の牧野隆夫先生にお願いして見て頂きました。

先生は夏休みに教え子の学生達を連れて作業に取りかかって下さいましたが、やがて、仏像全体的に傷みが来ており全面的に治す必要ありと判断され、本体を大宮の修復所に移す事になりました。平成十一年四月の事です。

先生の再調査によりますと、この観音様は非常に古く平安時代の末期(十一世紀末)頃の典型的な藤原様式のもので、多分大陸から渡ってきたと思われるとの事で、それが大正時代に、奈良にて絵画の修業を行っていた若き安田鞞彦氏の目に留まり、大正九年に新井の主人に送られてきました。

新井の主人は立派な厨子に安置しておりましたが昭和になってから中に納めるべく観音堂を安田画伯に依頼、建立した―という由来もわかってきました。

大宮に移った仏像は修復所で丁寧に解体され、新たに見つかった箇所を含め見事に修復されて同年八月四日に無事に元の観音堂の厨子内に再安置されました。

翌五日に当時の修禅寺住職田中徳潤老師を御導師として以下五人もの御坊様、及び関係者参列のもと開眼法要が盛大に執り行われました。真に有り難いことでした。

以来、お寺様のお世話で「梅花講」の皆様により御詠歌、観音念仏を挙げて頂く「新井観音講」がスタート致しました。毎月十八日と決めましたが(都合の悪い日は相談の上前後日に)皆様お忙しい用事をやりくりして大勢集まって下さいました。それが何と十三年経った今でも続いております。この十三年間のうちにはお身体の具合でお出になれなくなった方々やお亡くなりになった方達がおられ寂しくなってきましたが、隔月の二月・四月・六月・八月・十月・十二月と、年初め正月の年七回を、基本日十六日に設定しお願いをしています。

家からは私と長女が加わり、社員もお団子造りやお供えを始めとしてお堂内の支度に協力してくれております。

「新井観音講」のメンバーは修禪寺仏教婦人会の過去の会長、役員経験者も多く、十三年の長きに亘って一回も欠かさず御念仏を挙げて下さっておりますので、本当に心から感謝のひと言であります。

以上、前置きがたいそう長くなりましたが、このようにお世話になっておりますので、副会長及び会計の方をお願いして就任をお受けする決心をした次第です。

さて、今までに役員はしたことがありましたが、会長はじめ三役の仕事については恥ずかしながら全く意識しておりませんでした。その為に戸惑うことがとても多く、預かったノートを参考に捲つても実際とは違いますので、失敗ばかり。困惑しております。

最初の大事業、春季弘法祭では全体像の把握として準備しなければならぬ内容、関係者全員の人数・配置・時間の配分、等々その他新しくわかったことばかりでした。

研修旅行については、新旧役員交代挨拶に前三役の方達と一緒に、お寺にお伺いしました時にその話が出て、過去二・三年おきに実施

されていると聞いておりましたが、今年は？と御前様に訊かれ、私は深く考えもせずに勢いで実施しますと申し上げてしまいました。

御前様はそれならば、と、すぐに心当たりの候補を挙げられ、先方に連絡をして下さったので殆どその場で決定がされました。

行先は藤沢の時宗総本山遊行寺（参拝）と御前様の友人住職のお寺である高谷山長福寺（参拝と法話）、そして江の島の弁天様の参拝となりました。

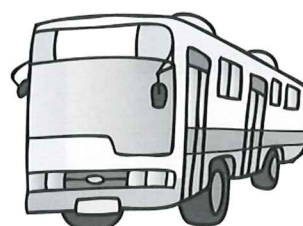
前回は大勢参加者があったとの事で、東海バスから七十名募集でバス二台の見積もりが来ましたが、

近く別の旅行があるので参加人数はあまり見込めないのではという悲観論が出て本当に心配を致しました。最終的にピッタリの七十名で出掛けることが出来て安堵しました。

小雨模様の中の出発でしたが昼前にはすっかり晴れあがって一日を有意義に過ごすことが出来ました。無事に済みまして皆様のご協力に感謝を申し上げます。

まだ、役員としての行事は幾つも済ませておりません。これからどうしたら滞りなく行事がはかどるか不安で一杯ですが、皆様のご指導のもと何とか二年間の務めを

果たしていきたいと考えております。
どうぞよろしくお願い申し上げます。



平成24年度 修禪寺護持会・仏教婦人会役員名簿				
地 区	氏 名	備 考		
顧問・住職	吉 野 真 常	修禪寺		
会 長	田 口 行 央	遊覧町		
副 会 長	野 田 治 久	南町		
副 会 長	児 島 保 次	小山		
庶務・会計	波多野 勤	上湯舟		
上 北 又	水 野 新 吾	監事		
下 北 又	山 口 信 彦			
上 湯 舟	波多野 一 夫			
下 湯 舟	梅 原 勝 則			
西 紙 谷	平 田 昌 男			
東 紙 谷	小 林 隆 男			
上 中 里	山 本 總 明			
下 中 里	森 下 眞 宏			
小 山 坂	梅 原 和 通			
小 坂 町	三 須 定 雄	幹事・庶務		
弁 天 町	河 合 弘 雄	監事		
上 神 戸	飯 塚 清 丸			
上 中 神 戸	中 村 治 雄			
下 中 神 戸	山 口 有 司			
下 神 戸	山 口 里 富			
桂 町	木 村 眞 宏	幹事・庶務		
遊 覧 町	田 口 行 央	会 長 兼 務		
本 町	原 京	幹事・庶務		
南 町	鈴 木 健 雄			
半 經 寺	堀 江 康 美			
下 修 善 寺	遠 藤 康 博			
横 瀬	杉 村 厚			
駅 前	杉 村 勝			
堀切・熊坂	水 口 信 夫	庶務・会計		
大 沢	星 谷 孝 彦			
婦 人 会 長	相 原 郁 子	小坂		
副 会 長	古 島 弘 子	小山		
会 計	中 村 俊 慧	中神戸上		

修善寺手づくり市in修禅寺

杉 山 照 子

今年四月二十九日・三十日の二日間、第三回修善寺手づくり市を境内で開かせて頂きました。日本各地で開かれる市は数々あれど、修禅寺境内で開催させて頂けることは非常に恵まれていると思います。それも今回三回目にしてゴールデンウィーク前半という日程で許可頂き、大舞台に立つような何とも晴れがましい気分でした。

第一回目の手づくり市は昨年の三月二十二～二十四の三日間、書院をお借りしての開催でした。その直前のあの未曾有の大震災。日が経つにつれ被害の大きさに愕然とし、のんびりと手づくり市など開いていいのかしらと弱気になりました。でも、こちらが元気を出さないと被災地に何も送れないと思います、方丈様の快諾を得て開催を決定。しかし、東京電力の計画停電の為、出展者が十七ブースに減ってしまいました。当日は三月も下旬というのに、真冬のような寒さ。手づくり市初陣を更に叩きのめすかのように雹まで降りまし

た。しかし、書院の中は元気でした。おばさんパワーはすごい！地元のお客様が来て下さって、寒さと戦いながら、三日間思いのほか賑わいました。雨が止んだ隙に手づくり市の旗を門前に立てに行くと、人っ子一人歩いていない！人がいるのは書院の中だけでした。

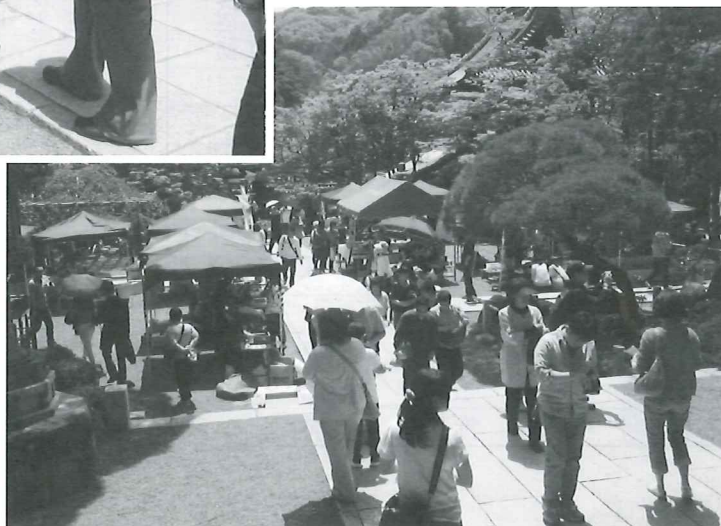
計画停電で町の灯も消えた寒空に足を運んで下さった方達に感謝。

そして普段はお会いすることさえ少ない町の方達に頭を下げ、無理を言いご好意に甘え：そんなやりとりで人とつながる喜びが感じられました。結局、修禅寺さんには少しばかりのお礼で堪忍して頂き、売上の一部と更なる出展者からのご好意・お客様からの募金で一五二、一四八円、静岡新聞社を通じて被災地に送ることができました。「また秋にやったらどう？」という方丈様のお世辞を本気にして実行委員の仲間三人、第二回目を企てました。昨秋には方丈様の晋山式という一大イベントがあり、その後の八十八ヶ所が終わった十一月十一・十二日の開催となりま

した。「今度は境内でやったら？」：「皆テントを持っていないのですが…」山竹さんが快く貸して下さることになり、境内でも何とかできそうな見通し。しかし観光客の通る境内にテントを並べるってどうなのだろう？お寺の品格を壊す：なんてお叱りを受けないかしら？と心配しつつ…。ブースの振り分け、テントの配置、搬入の手順等々、準備



手づくり市



にぎわう境内

万端整えたつもりでしたが…。当日は土砂降りの雨、頭に思い描いていた手順なんて思いっきり吹き飛ばされて…。テントはどうやって組み立てるの？テントに溜まった雨水はどう処理したらいいの？書院に入ることはできないの？etc. etc…。解決ゾロはスーパーマンじゃないぞ！二回目の思い出は土砂降りの雨に翻弄されたことに終始します。誰だ？雨男(女?)は！でも大変良いこともありました。木工をやる若者三人が協力を申し出てくれたのです。大収穫です。せっかくだから三回目もやりますか！

物事あきらめずに続ければ自ずと道が開けてくるのでしょうか？三回目は出展ブース三十二、参加者五十名程になりました。境内も一杯に埋まり、書院にもお客様の足が向くようになりました。今回新しい試みは、本堂脇の濡縁を使わせて頂いてのお茶席。一回目からお茶席を設けて下さっている高野さんのお煎茶は、お手前を受けた方には大好評だったのに、場所が今ひとつピツタリ来ませんでした！た。しかし、今回ははまりました！お庭の青もみじが本当に綺麗で、賑やかな手づくり市の裏で、こんなに品のある心と世界が展開さ

れているとは誰も思わないでしょう。お蔭さまで手づくり市まで格式高くなったようで、高野さんに感謝です。もちろん、そんな風流を快く許して下さいる方丈様あつてのことなのですが…。

さあ第四回目は？「手づくりの作品を展示即売し、作品を通して人々との交流を楽しみ、更に新しい出会い・発見が生まれることを願って開催する」この市は、自己満足に陥ることなく、観光の一つの点になると良いなあと思います。観光客にお勧めして頂けるような点・仕掛けをいっぱい増やして、町の人も楽しめる、行きたい・住みたい町へ。持てる財産を大事に守りつつ、新しい風がいつも吹いている町へ。創造のエネルギーマが満ちていてワクワクする町へ。修禅寺さんを中心に更なる充実を目指し、手づくり市もまた、四回目を方丈様をお願いに上がろうと思っています。

「お寺より速報」

第四回手づくり市in修善寺

十月二十七日(土)

二十八日(日)

開催決定！



花祭りと記念公演

○お釈迦さまの生誕を祝う「花祭り法要」が生誕日である四月八日(日)に本堂にて厳修されました。法要後は、伊豆市を中心に県外でも活躍されている和太鼓演奏表現チーム「喜酔会」による記念演奏が盛大に催され、大勢の参加者が熱心に耳を傾けておりました。本堂前にはお釈迦様のお生まれになったお姿の尊像「誕生仏」に

甘茶をそそぐ(これを灌仏《かんぶつ》といいます)花見堂が置かれ、仏教婦人会役員さん接待のもと大勢の参拝者がお釈迦さまに甘茶をそそいでいました。

世代忌法要

○修禅寺の歴代住職である、八世斧山宗鋳大和尚さま四〇〇回忌・当山三十九世天真絶三大和尚さま二十三回忌の年忌法要が六月十八日(月)に本堂にて厳修されました。

法要導師は修禅寺吉野住職が勤め諸関係者が参列焼香されました。



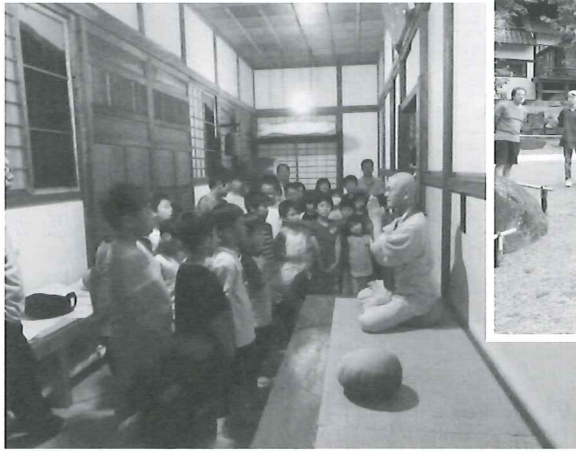
喜酔会による迫力の演奏

通学合宿

○七月五日夜から七日朝まで、修善寺小学校に通う「桂谷子供会」の小学生三十五名と保護者数名の皆さんが、朝小学校に通い夕方当



お寺から登校



坐禅を学ぶ



おやつの時間

山に宿泊・坐禅合宿する「通学合宿」を行いました。
朝早く起きての坐禅にも子供たちはみな真剣に坐っておりました。良い思い出になれば幸いです。

御寄付

○竹ぼうき 十本

— 中里 三須 章吾 様 —

○ぞうきん 四十五枚

— 大沢 星谷 りか 様 —

○ぞうきん 三十枚

— 佐野 飯田 さと 様 —

○タオル 三十五枚

— 中神戸 植田喜久枝 様 —

○黒米 三十キロ

— 湯舟 波多野 靖 様 —

○白米 三十キロ

— 中里 唐澤 之泰 様 —

— ありがとございました —

火曜坐禅会

一月～七月十日迄の参加者数

延べ 五二二名

八月～十二月のお寺の行事です

●八月一日(水)

午後六時「山門大施食会」

午後七時「第八回修禅寺寄席」

午後八時「供養盆踊り」

●八月二十・二十一日(月・火)
「秋季弘法忌大祭」

※二十日(月)

午後七時半 万灯会

二十一日(火)

午後四時半 大折袴会

午後七時半 川施食会

奉納花火大会

●九月二十二日(土) 午前十時
「秋彼岸会法要」

●十一月七～九日(水～金)
「桂谷八十八箇所巡拝」

●十二月八日(土) 午前十一時
「釈尊成道会」

●十二月二十一日(金) 午後一時
「奥の院星祭り」

●十二月三十一日(月) 午後十一時
「除夜の鐘」

